

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	0	0	0	0	0	0	0	0	
令和7年度の結果	-4	-6	-10	令和7年度の結果									
令和6年度の結果	-2	-3	-5	令和6年度の結果	-4.1	-4.1	-7.3	-6.8	-5.7	-2.1	-6.5	-2.5	
令和5年度の結果	-6	-7	-13	令和5年度の結果									

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度	
内容	目標		目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○AI機能を搭載したドリルを効果的に活用し、1人1人の課題に即して学力の向上につながる学習を全学年で行うことができ、一定の児童に学力の向上が見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査の結果から、算数科では、「変化と関係」「測定」の得点率が低かった。国語科では、読むことの領域において問題の得点率が低かった。</li> </ul>	<p>○全教員が、スタンダードに基づいた授業を実践する。</p> <p>○新単元を学習するのに必要な既習の知識・技能の振り返りの充実を図る。</p> <p>○文章を読んだり、書いたりする活動を取り入れ、読解力や表現力を身に付ける。</p>	<p>○江戸川区算数スタンダードの研修を校内で行い、校内で統一した指導を確認する。</p> <p>○算数少人数担当が、単元ごとの既習内容に関する復習のプリントを用意し、実施する。</p> <p>○第3学年以上は、国語辞典を日常的に活用できるようにする。</p> <p>○日記、手紙の指導、第4学年以上は読書やよむYOMUワークシートを効果的に活用する。</p>	
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図形を意識して算珠の練習を繰り返し行うことにより、はっきりと発音できるようになった。</li> <li>○量の理解の基礎となる経験を重ね、長さ、かさ、広さなどの量の大きさの比べ方を考える力が身に付いた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「は(わ)」「を(を)」「へ(へ)」の使い分け、揃、揃長を正しく用いて文章を書く力が弱い。</li> <li>○片仮名の読みができるが、書くことでの正答率が9割程度であった。</li> <li>○繰り上がりのある加法、繰り下がりのある減法の計算での正答率が低い。</li> <li>○加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことが苦手である。</li> </ul>	<p>○児童が国語科の授業だけでなく、他教科でも文章を書く学習を多く行い、正しく表現できるようにする。</p> <p>○身の回りから片仮名で書く言葉を見つけ、読んだり書いたりして定着を図る。</p> <p>○10までの数の合成・分解について具体物や図などを用いて考え表現する力を身に付ける。</p> <p>○問題文の中から必要な語彙や数字を見つけ、立式できるようにする。</p>	<p>○授業や家庭学習で日記や手紙、観察カードなどを書くことに取り組みせ、正しく文章を書くことができるようにする。</p> <p>○身近なものの中で、片仮名で表記する語を掲示し、片仮名に慣れ親しませ、習得する。</p> <p>○マッスルタイムやドリルパークなどで10までの数の合成・分解を繰り返し解き、習熟を図る。</p> <p>○江戸川区算数授業スタンダードの課題把握に重点を置き、全体共有を図った上で自力解決に取り組みさせる。</p>	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日記や国語のワークシートなどで文章を書く練習を重ねたことにより、書く力が伸びた。</li> <li>○繰り返し九九を唱え、かけ算の理解を深めると共に九九に慣れ親しんだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図形やかさ、時計などの問題の正答率が低い。</li> <li>○「は(わ)」「を(を)」「へ(へ)」の使い分け、揃、揃長を正しく用いて文章を書く力が弱い。</li> <li>○文章の読みが速い毎に毎に問題を解くことが難しくなっている。</li> <li>○既習漢字やカタカナが日常で使えない。</li> </ul>	<p>○様々な教科で文章を書く機会を増やし、既習漢字や片仮名を意識して使用する。</p> <p>○ミニテストや25問テスト、漢字コンテストを利用し、漢字の定着を図る。</p> <p>○作文用紙を用いて文章を書く機会を設け、段落を意識させる。</p> <p>○九九の暗唱を徹底し、正しく素早く唱えられるようにする。</p>	<p>○日記や授業のワークシート、振り返りなどで文章を書くことに取り組みせ、正しく文章を書くことができるようにする。</p> <p>○はじめ、中、終わりを意識して文章を書く機会を設ける。</p> <p>○マッスルタイムやドリルパークなどで、図形やかさ、時計などの問題に取り組み、習熟を図る。</p> <p>○江戸川区算数授業スタンダードを基本とした授業を実施し、自力解決に重点を置き、自分の考えをもち、他者に考えを共有する時間を確保する。</p>	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○マッスルタイムやスタディワーク、新単元の学習に入る前に前学年の学習内容を復習を定期的に実施したことにより、基礎・基本の定着を図ることができた。</li> <li>○問題解決型授業の実施やワークシートの工夫などにより、資料から読み取ったことを基に文章を書く力が向上した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を正確に書く力や読解力が低いため、正しく漢字を使って文章に表すことに課題がある児童が多い。</li> <li>○問題文から問われていることを正しく読み取ったり、図に表して考えたりすることが苦手なため、算数の文章題(□を使った計算、円と球に関する問題)の正答率が低い。</li> </ul>	<p>○既習の漢字を正しく使い、学習したことや自分の考えを適切に表現できるようにする。</p> <p>○辞書や辞典を正しく使用し、日常的に活用できるようにする。</p> <p>○反復学習に取り組むことで漢字や計算の基礎的な学習の定着を図るようになる。</p>	<p>○様々な教科で、振り返りやまとめを書く機会を確保することで、既習の漢字を正しく使うことができるようにする。</p> <p>○単元の導入時には、意味調べを行ったり、文章を書く際に辞書を活用したりする。</p> <p>○読書やYOMUよむワークシートなどを通して日頃から読解力の向上を図る。</p> <p>○ドリルやタブレット端末を活用し、適応問題を充実させ、マッスルタイムや宿題などで繰り返し問題に取り組むことで習熟を図る。</p> <p>○江戸川区算数授業スタンダードを基本とした授業を実施し、自力解決に重点を置き、図、文章、式などの複数の方法を使うことで思考力の向上につなげる。</p>	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習カルテを使用し、マッスルタイムやスタディワークで前学年の学習内容を復習を定期的に実施したことにより、計算技能の定着を図ることができた。整数と分数の足し・引き算、整数のかかけ算、九九を使ったわり算の計算は95%以上の児童が正確に行うことができる。</li> <li>○文章に書いている内容について、読み取ったことを表し整理し、要約することができる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○算数用語の理解が不十分で、その用語が表すものや意味を正確に捉えられていない。そのため、自分の考えを上手に表現したり説明したりする力が弱い。</li> <li>○算数ワークシートの形式では、「図形」の学習内容の定着率が低く、昨年までの学力調査でも正答率は前年度であった。</li> <li>○漢字を正確に書く力、読解力が低いため、自分の気持ちや事柄を正確に表現することができない。</li> </ul>	<p>○算数科では算数用語を正しく理解し、計算の仕方や考え方を表現したり説明したりすることができるようにする。</p> <p>○図形を正確に描き、特徴や性質を捉えられるようにする。</p> <p>○ドリルで繰り返し練習し、新出漢字を確実に定着させる。</p> <p>○日常的に言葉や漢字を適切に使い、気持ちや事柄を上手に表現することができるようにする。</p>	<p>○算数科では習熟度別の指導を基本として、児童の実態に応じた課題設定や授業展開を行う。自分の考えを表現したり、伝えたりする学習活動を取り入れ、算数用語に触れる機会を増やす。また、学習カルテやチャレンジタイムやマッスルタイムを活用して既習事項の復習を定期的に行い、計算技能のさらなる定着を目指す。</p> <p>○分からない言葉は国語辞典で調べを促し、自発的に辞書を用いて調べる習慣を付ける。</p> <p>○ICT機器を活用し、図形や漢字の書き方など視覚的に捉えられるようにし、学習内容の理解や定着につなげる。</p> <p>○江戸川区算数スタンダードを徹底した授業展開を行う。</p>	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年年度に引き続き、学習カルテの活用を生かし、マッスルタイムや、スタディワークで学習内容の復習を学年一で行ったことにより、基礎・基本と計算や文章題の読み取りなどの正答率が上がっている。</li> <li>○説明文や自分の考えや意見をまとめる際に、ICTを使用することによって、児童が抵抗感なく取り組み、ほとんどの児童が要旨や説明文を決まった文字数で書くことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単位量あたり大きさや割合の計算や問題はまだ正答率が低い。又、前学年までの学習内容の定着率が低い。</li> <li>○新出漢字の定着率が低く、文章を書くときにひらがなで書いてしまう児童が数多くいる。</li> </ul>	<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数直線、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○新出漢字を日常的に書けるようになる。</p> <p>○ICTを正しく使用し、日常的に活用できるようにする。</p>	<p>○算数科の授業では、習熟度に合わせた授業の構成を工夫し、江戸川区算数スタンダード、学習カルテ、チャレンジタイムやマッスルタイムの時間を確保して、既習学習の定着を図っていく。</p> <p>○読書やYOMUよむワークシートなどを通して日頃から読解力の向上を図る。</p> <p>○漢字ドリルの反復練習を行い、新出漢字を使用して文章を正確に書けるようにする。</p> <p>○どの教科においても自ら疑問に思ったことや調べたいことなどをICT機器を自ら活用して解決できる力を身に付ける。</p> <p>○日常生活に結び付けて興味・関心を高め、公式を使用して求められるようにする。</p>	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○マッスルタイムやチャレンジタイムを充実させたことにより、全国学力調査では全国平均と並んだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。</li> <li>○読むことの領域において苦手な児童が多く見られるので、YOMUよむワークシートなどを活用し、読解力の向上を図っていく必要がある。</li> <li>○算数において、算数事項を活用して考えたい部分において弱い児童が多い。</li> <li>○単位量あたりの大きさなど、問題文を読み立式する問題を苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<p>○新出漢字を日常的に書けるようにする。</p> <p>○文章を読む力を付け、理解する力を高める。</p> <p>○習熟度に応じた授業を展開し、基礎基本的事項の定着を図る。</p> <p>○問題文を読んで、立式をできるようにする。また、図や数直線などを用いて思考できるようにする。</p>	<p>○新出漢字の指導をより丁寧に行い、反復練習を行うことで定着を図る。</p> <p>○マッスルタイムやチャレンジタイムを活用し、基礎基本的事項の定着を図る。</p> <p>○読書やYOMUよむワークシートなどを通して日頃から読解力の向上を図る。</p> <p>○江戸川区算数スタンダードを徹底した授業展開を行う。</p>	